

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173300068		
法人名	有限会社Do		
事業所名	ういずゆう		
所在地	岐阜県飛騨市神岡町東茂住242番地		
自己評価作成日	令和2年8月5日	評価結果市町村受理日	令和2年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2173300068-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

神岡公民館での作品展、旭保育園との定期交流、神岡中学校職場体験、神岡高校職場体験、吹奏楽部の定期演奏会、茂住郵便局での定期作品展、神岡住民との舞踊・歌謡交流、年3~4回の小旅行等、毎年地域住民を施設に招き、一緒になって様々なイベント交流をしている。中日新聞、飛騨市民新聞、岐阜新聞、北陸新聞、中日テレビ等メディアを通して、施設の活動を家族、親戚、地域社会等に報じることでグループホームおよび「ういずゆう」の啓蒙活動を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と一緒に生活の場を作っていくことが、グループホームの在り方であると捉え、開設時から、ぶれることなく取り組み、支援を実践している。職員は、利用者が地域住民とつながりを持ちながら、生きがいと楽しみを見つけられるよう、様々な場面で交流を行い、質の高い作品作りを支えて作品展を実施している。また、開設時から積み上げてきた経験をもとに、利用者の状態を評価・分析する手法を事業所独自で考案し、職員は常に利用者の変化を見逃さない観察力を持ってケアに取り組んでいる。管理者と職員は、「福祉は人なり」をモットーに、強固なチームワークで利用者主体の支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作品展という形で地域社会に結果を提示し、広く地域社会に活動内容をアピールしている。	代表をはじめ、職員数名が事業所の立ち上げ時から関わっており、理念の「喜びに満ち、生きる力を喚起させる」を共有し実践している。作品展への参加など、様々な取り組みを継続しながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	吹奏楽演奏会、舞踊会等、毎年地域住民を施設に招いて交流すると共に、利用者本人が積極的に地域社会に溶け込めるよう様々な企画を展開している。	事業所内外で行う作品展は、開催を望む声が地域からあがり、また、住民から野菜や米などの差し入れも多い。その食材を利用して作ったものを住民に届けたり、コロナ禍であっても、玄関先には野菜が届けられるなど良好な関係を継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会または婦人会が行う様々なイベントの中で、介護や認知症、成年後見人制度等、様々な高齢社会に対する理解を深められるよう参加し時には講演も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設で行われる様々なイベントを紹介すると共に、写真等ビジュアル的な角度から利用者の表情が確認できるよう取り組んでいる。地域住民との合同消防訓練の実施。	運営推進会議は、新型コロナの影響により、3月・6月は文書で事業所の状況を委員に報告している。一昨年の取り組み課題であった土砂災害避難訓練を実施し、その報告を運営推進会議で行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会、飛騨市が行う福祉担当連絡会議において、行政との連絡を密にし、情報交換を行っている。	行政とは良好な関係にあり、担当者が代わった際には、事業所側から福祉現場の情報を提供したり、指定更新時の手続きに必要な書類作成も、連絡を取り合って円滑に進め、地域の高齢者支援のために常に連携を図っている。	行政主催の研修は、実施会場が遠方なため、参加の負担が大きく、事実上困難な現状にある。同地区にある事業所全体の課題として、行政の協力を得て、参加しやすい会場での研修会の実現に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、いつでも確認できる場所に掲示することで、日々取り組んでいる。また「身体拘束廃止指針」を定め、それに基づくよう実践している。	身体拘束廃止のための指針を定め、身体拘束適正化委員会を開催し、検討した内容を職員に周知している。排泄困難の利用者を、つなぎ服で対応したが、指針に従い、短期間で着用を停止している。また、職員は、言葉による行動制限や心を拘束することのないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月ごとに身体拘束適正委員会を開き、身体拘束及び虐待防止について、介護職員はじめ利用者の家族とともに、その防止策について包括支援センターおよび飛騨市福祉職員とともに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度はH18年10月より当施設の積極的な働きかけで、関係者と協議のすえ平成20年9月に制度を利用している。また不安定な家族には積極的に働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結には2回以上家族のもとを訪れ、入所に関する不安や疑問が無いよう、十分に納得していただいている。契約時にはチェックシートを用いて、家族の意識の確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	バーベキュー会・敬老会・食事会等家族が参加していただく場面を設け、家族の意見・評価を真摯に聞き出している。	職員は、ほとんどの利用者家族と生活圏が同じであるため、外出先で会うことも多く、その際に利用者の様子を伝えたり、希望を尋ねたりしている。事業所通信は発行していないが、利用者の日頃の様子や行事の時の写真を、適宜家族に送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全ての職員がチームワーク作りの大切さを十分に認識していて、運営や介護に関してオープンに意見交換している。	代表者と管理者は、常に職員と同じ立ち位置で、チームワーク作りと互いの業務への理解を持って取り組んでいる。管理者は、職員の能力と得意分野を発揮できるよう職場環境作りに努め、職員の意見を聴きながら、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数、勤続時間、職の内容によって給与水準を分け、研修・講習が受けやすいようサポートするとともに、その人の能力、特技を生かした持ち場を提供することで向上心を養っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	三年以上介護実績を積んだ人より、認知症基礎講座に参加させている。地域の医師または薬剤師を施設に迎えて、実践的な研修を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉事業所または医療機関との連携がきわめて重要で、常日頃より情報交換、医療相談を行い、相互の理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族と面談する時は、同じ職員が対応することで、人間同士また施設に対する信頼関係を構築して行く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	二度三度とご家族と共に話す機会を作り、事前の施設訪問、ご家庭への訪問と相互に取り交わしお互いに障壁のないよう配慮している。また施設入所を求められた原因をはっきりする事で、介護する側の初期の重要なポイントとなると考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、その家族がはたしてグループホームにふさわしいかどうか、また当施設の雰囲気荷なじむ事が出来るかどうかを見極めることが、長期サービスの重要な条件と考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設の運営理念と重なるところであり、毎日の様々な活動を本人と職員とともに選択する中で実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との食事会や舞踊鑑賞会、演奏会、公民館での作品展等様々なイベントを通して利用者とご家族との交流できる場を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	郵便局や公民館で作品展を開くことで、地域との交流する機会を設け、ご利用者やその友人たちとの出会いの場となっている。	地域の公民館、郵便局、銀行等で利用者の作品展を行ったり、事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域密着の運営が自然な形で馴染みの場所や人とのつながりになっている。職員の子どもや保育園の子どもたちとも、新たな馴染みの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゆったりとした広さの食堂及び娯楽室で、お互いが窮屈な雰囲気が出ないよう気の合う利用者同士を結び付けていく事で、施設内の環境が穏やかとなり、落ち着いた日常生活を営む事ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	神岡の地域は極めて狭く、退所された本人やご家族にも日常的に会うのは当然で、これまでの関係を断ち切ることはできない。またアウトホローしていく事で施設の信頼度の充実を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の様々な活動においては本人の希望や意思により選択させ、何もしたくないときにはそっと一日を暮らせる様に配慮している。	職員は、日々、利用者と自然体で接している中で、利用者の言動や表情等を観察し、その変化を見逃さないよう利用者一人ひとりと向き合っている。利用者の状況や、その日の様子を職員間で共有し、本人本位の支援を基本として取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族との話の中で、特に趣味や特技、生活スタイル、家族構成と状況を知る事が重要と考え把握に努め、忘れかけていた作業を想起させる事で、介護結果の向上を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前と午後と変化して行く不安定な認知症の心理・身体状態を把握し、ご利用者にあった活動と話し相手を誘導し、毎日が画一的にならないよう配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たり、職員と管理者、代表者が中心となり、定期往診の医師の助言やご家族の要望書等を総合的判断して作成しているため、ご利用者一人ひとりにあった計画がなされている。	介護計画書は、事業所独自のプログラミングを使いながら、利用者の日々の支援内容を項目別にチェックし、実践状況を分析、グラフ化している。また、分析データを活用して介護計画の作成やモニタリングを行い、その内容は、家族も利用者の状態が解り易いやすいものになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の介護日誌を毎日作成し、介護計画が予定通り実践されているか確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集会所の解放や屋外での食事会など施設の立地条件や建物構造の良さを利用し幅広い活動を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	郵便局や公民館での定期的作品展や交番所への資料の提供等公的な地域社会とのつながりを深めるとともに、地域で活動している舞踊団体、琴三味線団体、読み聞かせグループ、歌謡グループ等施設へ招いて交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望される医師による医療は、妨げる事は全くなく本人やご家族の意志を尊重している。また市民病院による5週ごとの往診により、本人及び家族の安心を支えている。	地域の中核病院でもある市民病院を協力医とし、定期的に往診がある。緊急時を除き、医療機関への受診が必要な時は家族等の送迎を基本にしている。開設17年になるが、インフルエンザの罹患者は出ておらず、新型コロナウイルス感染症対策にも万全を期している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	神岡地域の中核となる市民病院との連携により、退所後も同等の医療環境を継続する事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	市民病院の医師や看護婦と当施設の連携は築かれていて、当施設の要望や本人の希望または、医療現場の状態を相互に話し合うことができ、早期退院や施設での往診、治療等幅広い信頼関係を保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の専門的な立場から、本人の進行状況や半年後、一年後の推測される状態を説明し、参考資料を提供する事でご家族に不安や、心配を与えない。	事業所での看取り体制はないが、利用者の健康状態や認知度がデータ化され、その積み重ねの情報から、重度化や終末の時期を早い段階で予測している。家族と情報を共有しながら、方向性を話し合い、職員の観察力と家族の意向を適切な医療につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは作成して、定期的に訓練をおこなっている。また地元の駐在所の参加協力をもって、幅広く緊急事態を想定し訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急災害マニュアルを作成し、いかなる状態においても対応できるよう、職員間及び地元協力員の間で検討され、定期的に計測訓練を行なっている。	年2回の災害訓練を行い、消防署への通報訓練も行っている。災害時のマニュアルは、ハザードマップを確認しながら、実態に合っていないところは、その都度見直しを行い、備蓄も十分な量を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	作品展による情報公開とプライバシー保護には難しい関係があり、個人情報についてはあくまでも秘密を原則とし、情報公開においては個人の尊厳とご家族の希望を失う事無く行なわれている。	職員は、利用者が作品作りをする際は、一緒に材料選びから拘り、見る人を感動させる作品が出来るよう支援している。作品作りの作業を通し、利用者一人ひとりの意思を尊重しながら、生き甲斐と生活の張りとなるよう支援している。また、利用者が新たな事にチャレンジした時は、共に喜び、自信と誇りにつなげている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な活動や作業は強制されるものではなく、本人の意思・希望とその決定が重要で、自然と導かれるようなホームの環境づくりが必要でありそのために職員が雰囲気作りを行なっている。些細な事でもできた事を誉めてあげる事で次の活気に結び付けていく。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴に回数は制限しておらず、食事も本人の意思により量を調整されている。また起床は強制されるものではなく、いつまでも寝ていることができ、本人の心理・身体状態を見極めて誘導している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の住人たちとの交流が多く、様々な写真を地域に提供している当施設では、服装や身だしなみ、清潔感を大切にしており、本人のおしゃれと外出を楽しむ機会を作り出している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の素材や季節折々の野菜を利用しており、筍の皮むきや餃子、おはぎやきなこ団子、干し柿など利用者が得意とする献立や共に出来る食事作りをしている。食事の献立・調理・食材探しは、すべて職員の手作りで行われる。	食事は、出来る限り地元の食材を使いながら、旬の食材も取り入れ、味付けは利用者の好みに配慮し、三食を手作りで提供している。毎年、敬老の日には特別な食事で祝い、1人ひとりにプレゼントも渡すなど、楽しみにつなげている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節・体調により、補助食やスポーツドリンク等を補うことがあり、個人個人の一日の栄養バランスを整えている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全体で行なう入れ歯の洗浄、うがいを促し、習慣性が身につくように配慮し、定期的に職員による入れ歯洗浄を行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援は介護計画に中でも最も重要な部分と考え、一人ひとりの状態にあった支援を目指している。	声掛けが必要な利用者には、定時若しくは様子を見て誘導し、トイレでの排泄を習慣化できるよう支援している。パッドの交換は、気心が知れた関係性ができており、利用者の方から職員に手助けを求める時もある。排泄状況を健康管理につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を個別に記録して把握する事で、夏場冬場と季節による変化や排泄量の把握も職員に共有されている。また排泄を把握する事は本人の生活状態、心の状態を知る事ができるため極めて重要な要素となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別によっては一日2回入る方もあり、制限は設けていない。	浴室が広いので、冬場の室温に配慮したり、岩作り風の浴槽には要所に手すりを設置し、安全な入浴支援をしている。利用者自身で洗身する時には、指間等忘れがちな部分まで洗っているかを職員が確認し、清潔保持に意識して入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩・休息は個別によって行なわれ、そのときの本人の体調や心の状態に合わせて自由に取る事ができている。基本的に昼食後は個々の休憩時間として設けており、規則正しい1日の流れを習慣化している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の履歴を記録し、個々の薬のファイルを作成して職員がいつでもその作用・副作用について確認できるように配慮している。定期的に行なわれる往診時に症状の変化に伴う薬の処方医師と話し合い連携を緊密にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	様々な作品を作っていく中で一人一人の能力に応じた作業があり、利用者同士できないところは助け合って仕上げていく場面を作り出している。その中で自らの生きがいと生活の活力となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や草刈、花壇作りや神社・仏閣の参拝を行うことができる。	新型コロナウイルス予防の為、外出を自粛しているが、天気の良い日は事業所周辺の散歩で外気に触れている。ホームは広く、居室から食堂、浴室、ホール、玄関への移動だけでも、利用者にとっては、適度な運動になっている。作品作りも継続しており、これまでの日常の生活に変化はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出かけたときには個別に好きなお土産を購入させたり、おやつ・食材の買出しの手伝いが出来る場を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親しい友人にはリンゴ狩りやコスモス園など外出した折々や年賀状には本人の記念写真を添えた葉書や手紙を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	娯楽室、階段、廊下等やさしさと心落ち着いた季節感があふれるモチーフで装飾をしている。利用者と共に製作を行い、共同作業の楽しみの一つとなっている。	建物は、十分すぎるほどの広さがあり、玄関を入ると、利用者と職員の共同作業によるレベルの高い作品が至る所に飾られている。浴室が1階にあり、2階の居室と共用場所は、渡り廊下で行き来することができるなど、日常生活の移動が、利用者の生活リハビリになる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い娯楽室においてお互いの適度な距離感が保たれ、自分の居場所を自由に選択できるよう、ソファ、椅子、畳を配置してゆったり過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活道具は家庭で使用していた物をそのまま居室に持ち込むことで、馴染みやすい環境作りを行い、認知症の程度や季節に応じてその品物の数を調整している。	今回、新型コロナ感染予防対策として、見学を控え、代表や管理者からの話しや写真等で居室状況を知ることとなる。居室の扉には自分の部屋が分かるように名札を掲げ、使い慣れた生活用品を持ち込み、居心地良く過ごせる部屋にしている。各部屋に押し入れがあり、整理整頓しやすい造りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室のドアには写真入の名札をつけ、部屋の間違いを防いでいる。また廊下には黄色の案内線や誘導紙を掲示して自立歩行の手助けをしている。		